

年頭のご挨拶

2016年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は当社に対し格別のご理解ご協力を賜り誠にありがとうございました。本年も引き続きよろしくようお願い申し上げます。

さて、わが国経済は、日銀の異次元の金融緩和政策による円安や大手企業の業績回復に伴う雇用環境の好転を受け株式市場が堅調に推移する反面、設備投資の緩慢なペースや中国の景気減速観測などの影響により景気は足踏みとなっています。

一方、当業界を取り巻く諸情勢を見ますと、前半は低調な取引に推移していたものの、夏季に米国の利上げ観測による金価格の急落場面などにより取引は回復傾向を示し、年末にかけては東京商品取引所のドバイ原油に連動するETNの活況を受けて取引高、取組高ともに大きく増加しました。また、5月に上場した決済期限のない東京ゴールドスポット100が徐々に個人投資家を中心に人気化し、依然として厳しい状況ながら、取引は数年振りに前年実績を上回ることであります。

当社の近況を申し上げますと、他社清算資格の取得が相次ぎ、特に7月には銀行業として初めてとなる他社清算参加者の参入がありました。これにより、海外からの取引参加者の一層の増加につながることであります。

また、東京商品取引所では本年9月に次期システムに移行する予定であります。当社清算システムは同システムに依拠していることから、グループ一体となって取引所等の関係者と共に協調して順調に作業を進めているところであります。

一方、一昨年11月に主務省から「商品取引清算機関の監督の基本的な指針」が公表されたことを踏まえ、本指針及びFMI原則に基づき、リスク管理の高度化及び国際的リスク管理規制への対応作業を進めているところであります。

また、東京商品取引所の精力的な努力もあって、今や海外からの取引が全取引の半数近くを占めるに至っております。海外からの参加者に選択される市場となるためにも、信頼できるクリアリングサービスを提供することが不可欠であり、当社は、その重要な機能を担っていることも肝に銘じ、商品先物市場の安定と繁栄に資すべく、今後とも役

職員一丸となって清算業務の信頼性向上に邁進する所存であります。

最後になりますが、本年につきましても、主務省をはじめ、清算参加者並びに関係各位のご指導、ご支援をお願い申し上げますとともに、皆様方のご繁栄、ご健勝を祈念して、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

2016年1月

株式会社 日本商品清算機構

代表取締役社長 吉田 高明